

# 令和元年度第2回都市科学部運営諮問会議議事録

日 時 令和2年3月17日(火) 14時53分～16時34分

場 所 事務局本部棟3階 第2会議室

出 席 平野雅之、宮坂久美子、高尾成弘、青木優介、川添裕（主宰）、勝地弘、及川敬貴  
（代理）

欠 席 なし

議事に先立ち、川添学部長から、資料1にもとづき、令和元年度第1回都市科学部運営諮問会議議事録の確認があり、原案のとおり承認された。

## 議 題

### 1. 令和元年度に係る評価について

はじめに、川添学部長から、資料3にもとづき、令和元年度の評価シートについて説明があった。

#### （1）都市科学部における学生の受入れについて

川添学部長から、資料4にもとづき、都市科学部における学生の受入れについて、以下の説明があった。

- ・全体としては昨年から大きな変化ではない範囲で減少している。一昨年との比較では減少傾向のため、広報を強化している。目立つところでは、前期入試の環境リスク共生学科が増えている。
- ・来年度からセンター入試が変わるため受験生に早めに決めたいという傾向が出ており、A0と前期日程が増え、後期日程が減っている。

#### （2）都市科学部における広報について

川添学部長から、資料5-1にもとづき、模擬講義と公開講座の実施状況について説明があった。

つづいて、資料5-2にもとづき、広報の強化について以下の説明があった。

- ・入学者の分析の結果、有名進学校に集中する傾向があり、地方の県立高校の出身者が若干減少傾向にあった。そのため、全国の150の高校へパンフレットの送付を行った。
- ・入学者へのアンケートを集計し、情報収集の媒体はウェブのシェアが圧倒的に高いという結果が出ている。そのため、ウェブサイトをスマホに対応するべく作業中である。新規コンテンツとして、特色ある活動と、動画を掲載する。公開は来年度の前半を予定。
- ・講義棟のロビーに多面パネルを設置して、活動情報を発信していく。
- ・オリジナルクリアファイルを制作中である。

つづいて、資料6-1～6-6にもとづき、今年度開催した6つのイベントについて説

明があった。第一回の運営諮問会議において学科ごとにバラバラな印象があるという指摘を受けたことを踏まえ、イベントを多数開催している。学部生が学科を越えて一緒に参加することで、学部としての一体感の醸成を計っていることの説明がなされた。黒板グラフィティコンテストの3作品を、広報で紹介したクリアファイルのデザインとすることが報告された。

### (3) 都市科学部における教育について

川添学部長から、資料7にもとづき、「都市科学 A、B、C」授業評価アンケートについて説明があった。全体として、前年に比べ授業に対する満足度が高まっていることが読み取れる。

つづいて、資料8にもとづき、特色ある活動について説明があった。ウェブサイトの新規コンテンツとも連動した資料で、各学科の特色ある活動を紹介している。現場での学びが特色の学部であり、PRしていきたい。

つづいて、資料9にもとづき、卒業研究の指導方法について、学生が卒業研究の副指導で他学科の教員を指名するためのフォーマットで、文理融合の理念を具体化したものであるという説明があった。

つづいて、資料10にもとづき、キャリア支援教育について説明があった。次年度から4年生まで揃うことに伴い、昨年の夏から就活の支援に力を入れている。卒業生や全学のキャリアサポートルームとも連携して、活動していることが報告された。

つづいて、資料11にもとづき、「都市科学事典」について都市科学の体系を事典の形で作成している旨の説明があり、巻の構成を紹介した。来年度刊行予定であることの説明があった。

つづいて、資料12にもとづき、海外渡航の状況について説明があった。社会的にも要請の強まっているグローバル人材の育成のため、外国に学生を連れて行き交流と勉強を行っており、年々参加者が増加し発展していることが報告された。

つづいて、資料13にもとづき、地域課題実習の履修状況について説明があった。実習への参加割合は都市科学部生の比率が高く、地域連携への関心の高さを表している。また、一度受講した学生が改めて履修する科目についても、都市科学部生の参加率が高いという報告があった。

### (4) その他の事項について

川添学部長から、資料14にもとづき、都市科学部講義棟の改善について説明があった。4月1日より都市科学部で講義棟を持つこと、プロジェクターを増設すること、壁の塗り替えを行ったこと、講義棟のロビー改修について説明し、指摘事項の充実した環境の整備への対応を行ったことを報告した。改修後のロビーは学生の交流の場となることへの期待が述べられた。

つづいて、資料15にもとづき、都市科学部の財政基盤について説明を行った。学生相当分として配分予算が増える反面、授業数増加に伴い非常勤講師の手当が増加することの説明が行われた。外部資金の獲得を引き続き検討していくことが述べられた。

つづいて、資料16、17にもとづき、管理運営体制について説明があった。

## 2. 都市科学部への期待・提言

委員より以下の意見が寄せられた。

○都市科学部における学生の受入について

・地方出身者や、外国籍の方、高齢者や障がいのある方といった、多様性のある人たちとの共生が都市科学の縦軸になってくると思うので、多様性を持った人を受け入れる方向性はとても良い。

→これについて、川添学部長から、来年度から帰国生入試を都市社会共生学科と建築学科で始める旨の説明があった。

・全国的に学生を集めたいという方向性も分かるが、もっと地元の学校から取ってもらいたい。

○都市科学部における広報について

・多用な取り組みを行っている。多様性を確保するために地方を含め広報を強化していくことはとても良い。

・全国へのパンフレットの配布はよい取り組みであり、ウェブサイトのスマホ対応も今の学生のニーズに対応していて良い。

・学部としての一体感の醸成は良いが、それぞれの個性や専門性をしっかりと持った上でコラボレーションしていくのが理想だと考える。

○都市科学部における教育について

・都市科学A, B, Cのアンケートについて、学生から多くの具体的な意見が出ている。こういった意見を大事にしていただきたい。

・特色ある活動で紹介された内容は、魅力のある教育活動だと思う。特に都市科学A, B, Cは充実をさせていただきたい。

・羽沢横浜国大駅を都市科学部の発表の場として活かして欲しい。

・卒業生の進路が決定的な広報になる。就職先の把握だけに留めず、その後どうなっていたかを追跡して、活かして行くことを期待する。

・海外に行く学生が年々増えていることは素晴らしい。なるべく経済的な負担がかからないような支援をして欲しい。

・都市科学事典をウェブ掲載して広く閲覧できるようにして、受験生にPRして欲しい。

→川添学部長から、本を出版する都合上全てを掲載することは難しい。代表的な項目を掲載することは検討したいという発言があった。

○設備・施設等について

・ロビーの改修を行ったことで、学部を越えた交流が期待でき、コミュニケーションを

促す良い取り組みである。

- ・新しく講義棟を持つことは非常に良いニュース。先生の交流や学生の交流が自然と生まれるのではないかと。

○財政基盤について

- ・学科をまたぐような大きな研究テーマで、数年単位で複数の学科の先生が関わる形で外部資金を取りに行ってみてはどうか。そのために、コーディネートをするスタッフや事務作業をこなすスタッフが必要になってくる。

○内部質保証について

- ・来年度4年生まで揃い、PDCAのCができるようになる。手間がかかるので、機関別認証評価等を大学としてのチェックに利用することで負担を減らしてはどうか。

### 3. その他

○令和元年度の評価について

川添学部長から、3月31日（火）までに評価シートを提出していただきたい旨、依頼があった。